事例⑫

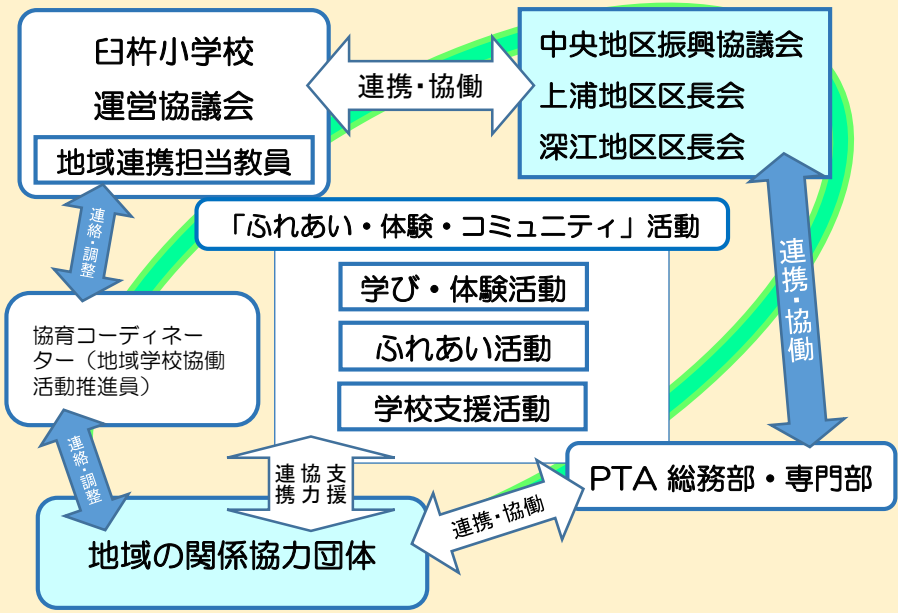
取組実践校：臼杵市立臼杵小学校（児童数266名　13学級）

「育成を目指す資質・能力」をもとにビジョンとエビデンスを地域と共有

※学校運営協議会設置校

○学校評価の４点セットを学校・家庭・地域の共有アイテムとして最大限活用
・PTA役員会　・学校運営協議会　・臼杵中央地区振興協議会　・区長会　・地域の関係協力団体
⇒育成すべき資質・能力をもとに目指す子ども像、学校像とエビデンスを明示し、役割を共有

「ふれあい・体験・コミュニティ」活動の全体組織図



具体的な取組①

共有アイテムとしての４点セットの活用

【知識及び技能の習得】	さいごまでがんばりぬき、やり方を工夫して自他の命を守る児童の育成	①「日常的に健康や安全に気をつけて生活することができるようになってきている」と肯定的に回答する 児童９０％以上 （１学期末８５％以上） ②「防災（コロナを含む）を意識し、自他の命を守るために意識して行動することができるようになってきている」と肯定的に回答する 児童９０％以上 （１学期末８５％以上）	学校	①健康・安全な生活をおくるために日常生活を振り返り、よりよい生活が送れるよう意識づけを行う。 ②防災（コロナを含む）を意識し、自他の命を守るための行動・実践について日常的に振り返りをおこない、評価、励ましを行う。	①学級担任、養護教諭は健康観察・指導を毎朝行うとともに、児童が心身ともに健康・安全な生活がおくれているか点検し、必要に応じて組織的に対応するなど常に改善を図る ②防災教育コーデイネーターは日常的な防災学習を進めるとともに月に１回程度「防災デー」を企画し、全校で防災教育を行い、学習や活動の振り返りから自他の命を守る実践をすすめ、防災意識を高める。
			家庭	学校だよりやPTAの会合等で学校の取組を理解し、家庭でも児童が健康・安全に生活できるようにする。	家庭は毎月1日を防災デーとして防災について話題にし、児童が健康・安全で自他の生命を大切にできるように話し合いを持つ。
			地域	学校運営協議会や学校だより等で学校の取組を理解し防災活動を中心に据えた取り組みを協働して行う。	地域は防災活動について協働して取り組む。またその様子について学期に1回以上各種行事や会議で話題にしその評価や励ましを行う

○ビジョンと
　エビデンスの共有

○家庭・地域の役割の明確化
○主語を「家庭は～」、「地域は～」とすることによる当事者意識の高まり

◎各種会議での共有アイテムとして「学校評価の４点セット」を最大限に活用している。成果として、目指すゴールと役割が明確になっている。

具体的な取組②

PTAの役割の見直しと取組の精選

ⅰ）PTA学級懇談会（9月、12月分をカット）

年６回（～R1）　前年比１／３の削減　年４回（R２）

○各種活動や学級の様子は、紙面にて報告。
授業参観は、別時期にある学校公開日を積極的に活用

ⅱ）防災スタンプラリーと避難訓練の同日開催

ⅲ）読書習慣の確立と家庭の参画という視点から読み聞かせ活動（ボランティア）の実施

具体的な取組③

活動をＰＴＡから地域に移管

○「防災Dayキャンプ」
PTA父親部会から地域振興協議会へ主催者を移管し、「地域の行事」として開催